B－52 服地の屋外暴露による季節的変化(変退色に関する)

北海道教育大学　　伊藤花子

目的、本研究は、同種類の平織服地9種類の色を、晴天時屋外に暴露し、季節的変退色のちがいを究明しようとしたものである。すでに昭和45年度の本学会における東北・海道支部会および総会において、その一部分は発表済である。

今回はその後の分であるが、本研究の目的は1年間における変化を追求する所にあり、以前の分も考慮に入れて観察した結果である。

方法、50cm×70cm厚さ5cmの木箱の側面に2ヶ所づつ換気口を設け、前記実験試料をならべ、箱の上を透明ビニールシートで被い、室内の清潔な部分で直射日光に暴露して布地の変退色を試みた。1日の照射時間は午前10時から午後3時までの間に行い、その間雨天、降雨、降雪、強風などの場合は、実験中でも中止し、全く晴天時のみを条件とした。暴露の際は照度測定も同時に行い、日光との自然関係における変退色を究明したもので、測色は万能光度計により、公式にもとづいてY、λd、Peを求めて比較を行った。なお照射時間は1回分を、35時間と50時間とし、1年間に10回分の測定を行った。

結果、照度の低い冬期間でも35時間照射すれば、すべての色は変化する。月別には7月、8月が最高である。また変退色の大きい色、比較的固定しぬ色は、季節の変化によらず大体一定していることも判明した。